

带状疱疹とは



带状疱疹は、水痘（すいとう）と読み、水ぼうそうのこと。带状疱疹ウイルスによって引き起こされ、神経に沿ってピリピリした痛みが出た後に水ぶくれのある発疹が現れる病気です。

初めて水痘・带状疱疹ウイルスに感染したときは、水ぼうそうとして発症しますが、それが治った後もウイルスは体内の感覚神経の根元にある神経節に潜み、加齢、肉体的疲労、精神的ストレス、風邪などで体の免疫の働きが低下したときにこのウイルスが再活性化し、带状疱疹を発症します。带状疱疹は、他の人に带状疱疹疹としてうつることはありませんが、水ぼうそうにかかったことがない人には水ぼうそうとしてうつる場合がありますので注意が必要です。



帯状疱疹の典型的な症状の一つに激しい痛みがありますが、これは神経と皮膚の両方に炎症が起るために生じます。また、赤みと水ぶくれを伴った発疹が帯状に体の片側に現れる皮膚症状があります。実際に皮膚症状が現れる数日

前から、神経の流れに沿って、しびれ、痒み、ピリピリする痛みやチクチクする痛みが現れることが多く、痛みは発疹が出てから数日後にピークを迎え、皮膚症状が治まると痛みもなくなります。顔面に起きる带状疱疹では、角膜炎や結膜炎を引き起こし、まれに耳鳴りや難聴、顔面神経麻痺などの合併症が現れることもあります。

带状疱疹を予防するには、十分な睡眠を取ること、栄養バランスのとれた食事を摂ること、適度な運動をすること、過労を避けること、心の安静を保つことなどを心がけましょう。

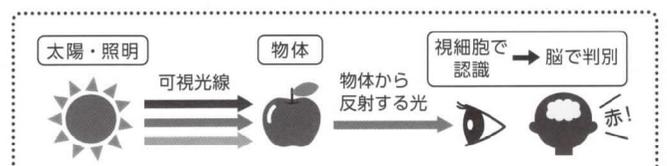
医療費控除が受けられるのは、病院を受診し高額な医療費を支払った年だけと思つていませんか？2017年1月から開始されたセルフメディケーション税制という制度は、薬局や薬店で販売している一部のOTC医薬品を1年間で合計12,000円以上購入すると医療費控除の特例を受けることができます。2022年1月1日よりさらに5年延長の2026年12月31日までになりました。医療費控除と同様、確定申告をする所得税の一部が還付されて翌年度の住民税の負担が軽くなります。ただし、通常の医療費控除と併用はできません。

この制度は、日頃から自分で健康に関心を持ち、健康づくりに取り組み、病院を受診するほどではない軽度な不調に対して自ら薬局や薬店に相談し情報提

人間の目は文字や立体構造など様々なものを識別しますが、色もそのひとつです。赤、青、黄、白、黒などの色の違いだけでなく、ひとつの色でも濃淡や明暗によって、その違いを識別できます。

色の違いは、物体が発するもしくは反射する光（可視光）の波長の違いを視細胞（錐体）が認識することによって判別します。波長が長いものは赤く見え、短いものは紫色に見えます。虹の色の順番がそのまま波長の長短を表します。ちなみに、赤色の光よりも波

色の識別



長が長いものを赤外線、紫色の光よりも波長が短いものを紫外線と呼びます。赤外線や紫外線は可視光ではないので人間の目では色を認識できません。また、夜になるとものが見えにくくなるように、物体の色を識別するには、それを照らす照明が必要なことはいまでもありません。そして、錐体の感度の違い（色弱など）で色の区別がつきにくい場合もあります。

このように、色の識別には複数の要素が絡んでいます。

最近、目に良いといわれる機能性成分とブルーライトとの関連がマスコミでよく紹介されています。これは、光の色の補色（反対色、

セルフメディケーション税制が延長されました



今年1月より5年間延長！
対象となるお薬が増えました！

供を受けてOTC医薬品を適切に使用することをすすめるものです。そこで、健康の維持増進及び疾病の予防への取組として、予防接種、勤務先で実施する定期健康診断、市町村が健康増進事業として実施する胃がん、子宮頸がん、肺がん、乳がん、大腸がんの5項目のがん検診などを受けている人が対象となります。

制度開始から対象となつている医療用医薬品からOTC医薬品へ転用されたスイッチOTC医薬品に加えて、国民が気になる症状、特に訴えの多い症状に

セルフメディケーション 税 控除 対象

共通識別マーク
(任意表示のため一部表示がない製品あり)

「厚労省セルフメディケーション」で検索してみてください。

使用されるOTC医薬品の種類や成分の範囲が拡大し品目が増えました。具体的には、腰痛・関節痛・肩こりなどの外用鎮痛消炎薬、発熱・痛みの症状に用いる解熱鎮痛薬、咳、痰の鎮咳去痰薬、かぜの諸症状の緩和のかぜ薬、かゆみ、じんましん、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどのアレルギー症状に効く鼻炎用点鼻薬、鼻炎用内服薬、抗ヒスタミン剤、その他のアレルギー用薬が該当します。具体的な税制対象品目一覧については厚生労働省のHPにて確認できます。

対照色）となる目の関与成分を摂ると良いという考え方です。補色とは混合すると白、灰色、黒などの無彩色となる2色の組み合わせのことで、具体的には、青色のブルーライトの補色である黄色の成分として、ほうれん草や小松菜などに多く含まれるルテインなどを摂るといいことです。食事やサプリメントで補つと良いでしょう。

日常生活における色の識別は、危険回避などの上で重要です。気になることがあれば放置せず、眼科を速やかに受診しましょう。



保険調剤さの薬局

札幌市北区北23条西4丁目2-13
TEL011(756)7788 営業時間/午前9:00~午後9:00